

源敬公編撰

初學文宗

完

源敬公

征夷大將軍右大臣家康公之  
十男尾張國主大納言義直  
鄉之御事也

慶安三庚寅五月七日薨

當国春日井郡水野村應夢山

定光禪寺葬

初學文宗目錄

孝行之事

身之備凡事

軍之事

國之治凡事

禮法之事

官位之事

神社之事

葬之事

附祭之事

惑之事

初學文宗



夫學ノ事ハ難キニアラス人生ノ日々  
二用ヒ行フ處是皆學ノ道ナリ今ノ人  
此理ヲ知者少シ學問ト云ハハ愚ナル  
者ノ成ヘキ事ニアラストテ聞ヘキ事  
トモセズ故ニ愚ナル者ハ弥愚ニシテ  
道ヲ知ル事ナシ我是ヲイタス思フ故

二人初テ生レシヨリ七十以上ニテノ  
間心ヲ正シ身ヲ脩メ國家ヲ治メ其外  
官職禮法軍旅等ニ至ラテ假名ヲ以テ  
是ヲ書付ケ一巻ト成レテ是ヲ初學文  
宗ト名付ク蓋シ初學ノ人ヲレテ大道  
ノ一端ヲ知シメント思フ心也

一古ヘヨリ婦人懷妊シテハ寢レトモ身  
ヲ側<sup>ソバテ</sup>テ卧コトナク座スルニハ座<sup>セ</sup>床<sup>シヤウ</sup>十  
トノ側ヘ倚<sup>ヨル</sup>コトヲセズ立トキハ片足  
ヲアケテ立コトヲセズ座敷ニヲレト  
モ正カラサル所ニハ假ニモヲラス珍  
敷アヤシキ食物ヲセズ割<sup>カ</sup>ノ夕、シカ  
ラ又物ヲ食コトナシ目ニアヤシキ色  
ヲ見ス耳ニ淫亂ノ聲ヲ聽ス假初ニモ

心ヲ勤ス事十リ夜ハ七目目十ル人ニ  
夕、シキ詩ヲウタハセ明十ル道ノ理  
ヲ物語サセテ聽十リ

一 一歳ヨリ五歳マテアヤシキ物ヲ見ス  
ル事十リ淫亂ノ聲ヲ聞シムル事十カ  
レ歌ヲウツフニ毛淫亂ノ事ヲ云シメ  
ス右ノ年ヲ使フ事ヲ教エヘシ  
六歳ヨリ十歳マテ物語ニ毛怪<sup>ク</sup>シキ事

ヲ語ラス怪物ヲ食シメス教ヲシラシ  
メ物ヲ書事ヲ教エヘシ  
一 十一歳ヨリ十五歳マテ馬ニノリ弓ヲ  
射ル事ヲ教ヘシ學問ヲサセ人ト争ヲ  
セズ慢カキナル心ヲ戒メ淫亂ノ道ヲ  
堅リ制シ禮ノ法ヲ習シムヘシ父母ニ  
孝ヲシ君ニ忠ヲ致シ朋友ニ信ヲナシ  
臣ヲ使フ事ヲ教エヘシ

一十六歳ヨリ廿歳マテ身ニ綺羅ヲ飾ル  
 事ヲ戒メ正直ナル人ニハ交リ邪佞ノ  
 人ニハ交ル事十カレ奇怪ノ事ヲ好シ  
 メス古ヘノ道ヲ謗リテ事ヲ邪ニ破ル  
 事十カレ殊ニ禪法ニ入事十ナルヘシ  
 其故ハ無ノ見ヲ以テ人ニ示スニ依テ  
 物コトヲ破ル後ニハ有ノ見ヲ示ト久  
 トモ初學ノ者ハ其有ノ見ニ至ル事難

一 故ニ仁義禮智ヲ忘ル此年此ハ血氣  
 盛ナルニ依テ廿十キヲニ物ヲ破ルキ  
 廿ニアリ其故ニ戒トスル十リ遊山翫  
 水ヲ樂トセス強テ翫心ヲ留ル事十少  
 多ク酒ヲ飲ム事十カレ  
 一 廿一歳ヨリ三十歳マテ身ヲ正シクシ  
 理ヲ明ニシテ人ノ言コトヲヨク辨ヘ  
 テ思キ事ニ趣ク事十カレ善言ヲヨリ

聞イルヘシ殊ニ人ノ諫ヲ聞テ心ニ不  
 叶トモ怒心事十カレ善惡ヲヨク見知  
 事ヲ專用トシテモ私十ク物ニヒカサ  
 レ人欲ニヨハル、事十カレ  
 一三十一歳ヨリ四十歳マテ凡此年ニ至  
 テハ萬ノコトヲ大形學ヒ得ル事有故  
 ニ必慢キノ生スル事有ルモノナリソ  
 コウ能分別シテ高慢ノ心ヲオサヘ弥

道ノ理ヲ悟リ知テ身ヲ脩ムヘキナリ  
 一四十一歳ヨリ五十歳マテ人ノサカリ  
 ナレハ能慎<sup>ツミ</sup>テ惡キ名ヲ取ル事十キ様  
 ニタレシムヘシ年四十而見惡<sup>ニ</sup>季其終<sup>シ</sup>  
 也ト古語ニモ見ヘタリ  
 一五十一歳ヨリ六十歳マテ年老タルト  
 テ學ノ道ヲ廢<sup>スツ</sup>ヘキニアラス一學一言  
 ヲモ人ニ問ヒ聞ニト思フヘシ故ニ四

十五十而無聞<sup>キハ</sup>不足<sup>ラ</sup>畏<sup>ルニ</sup>而已<sup>シ</sup>ト古語ニ毛  
見ハ夕リ

一六十一歳ヨリ七十歳マテ年老テハ心  
物ニ指出タキ者也其事ヲ不知シテ血  
氣衰<sup>フトキ</sup>タル故ニ時ニアワサル事ヲ強<sup>シ</sup>テ  
云<sup>アニ</sup>宣<sup>イニ</sup>戒<sup>シ</sup>サランヤ七十ヨリ上ツカサノ  
者ハ老<sup>ラシ</sup>老<sup>モウ</sup>シテ事ヲ忘ル毛ノ十レハ必  
ス國ノ政ヲトル事十カレ若君ノ命ニ

依テ政ヲトシハワカ身ノ老老シタル  
所ヲ顧<sup>アホク</sup>ミテ慎テ行フハキ也又古語ニ  
毛大夫七十而致事トアリ致事トハ其  
職ヲ君カヘシ奉ルソ

孝行之事

夫孝行ハ父母ニツカフマツルヲ本ト  
ス故ニ父母在<sup>イ</sup>ス時ハ遠クアリカスア  
リソ時ハ必<sup>ツ</sup>告知<sup>シ</sup>ムヘシ子曰<sup>ク</sup>生ルニ

八事之<sup>レ</sup>以<sup>テ</sup>禮<sup>ヲ</sup>スルト云ハ父ハ子ヲ愛シ  
 テ安キ所ヲ喜<sup>ブ</sup>ンテ已ニ禮ヲ忘ル子ト  
 シテ親ノ命ニ違<sup>フ</sup>事ヲ思ヒテ禮ニソ  
 ムク是孝ニ有ラス禮ニ不<sup>多</sup>達<sup>ク</sup>ヲ以テ孝  
 トスル<sup>ル</sup>今之孝ト云者是謂能<sup>ク</sup>養至<sup>テ</sup>於  
 大<sup>ニ</sup>其皆能有<sup>ク</sup>養不敬ヒ慎テヨク使フル  
 ヲ孝トス親ノ前ニ出ル時ハ先ツ氣色  
 コワツキヲ和クヘシ顔色ヲカタフス

ハ父母ハ子ヲ思フユヘニ案シ煩フゾ  
 父ノ勞ヨスルトキハカワツテ是ヲワ  
 トムヘシ又禮義十トノ時ハ其位次第  
 ニ是ヲ行フリ勞ヲヤスニスルト云ト  
 イハトモ禮十トノ時ニ先<sup>其</sup>コト十シ又  
 ノ道ニ違フ時ハ漸ニ諫<sup>其</sup>志ヲ見テ從<sup>ニ</sup>  
 マシキトキハ敬シテ違フ事十カレ父  
 母喜トキハ諫<sup>之</sup>又從ナル時モ不<sup>レ</sup>怒是

子孝ト云ニカ父在時ハ其志ヲヨリ見  
 ヲ父没ニ又ル時ハ其行ヲ見ヨ三年父  
 ノ道ヲ改ル事ナカシ父母ノ年ヲハ不  
 可在<sup>ラ</sup>不知<sup>ラ</sup>一<sup>ハ</sup>則<sup>テ</sup>次喜<sup>ヒ</sup>一<sup>ハ</sup>則<sup>テ</sup>次懼<sup>ル</sup>ト云ハ  
 其年ヨリ若ク見ユル時ハ喜ヒ其年ノ  
 寄<sup>リ</sup>タルヲ見テハ懼<sup>ル</sup>ル親ハ子ヲ愛<sup>シ</sup>テ  
 喪<sup>ニ</sup>テモ子カフ也ヨト云ト毛子ハ其喪  
 ヲツトム<sup>ハ</sup>シ<sup>テ</sup>葬<sup>ニ</sup>至<sup>テ</sup>ハ又薄<sup>ク</sup>シセ

ヲト云孔子ノツ、シ<sup>テ</sup>行<sup>フ</sup>ハ命ニ  
 ソムクト云ヘカラス終<sup>リ</sup>ヲ慎<sup>ミ</sup>シ遠<sup>ク</sup>  
 逐<sup>ク</sup>ハ曾子ノ前言ナリ

身ヲ脩ムル事

身ヲ脩ムルハ其心ヲ正<sup>ス</sup>ルソ其心  
 ヲ正<sup>ス</sup>シ<sup>テ</sup>スルト云ハ其意ヲ識<sup>ス</sup>ニスル  
 ノ其意ヲ識<sup>ス</sup>ニセ<sup>ン</sup>ト思<sup>フ</sup>ハ其知<sup>リ</sup>ヲイ  
 タセ知<sup>リ</sup>ヲイ<sup>フ</sup>ス<sup>ル</sup>トハ其物々ニヨツ

テ誠ノ道ヲヨリ思へ知此存スル時ハ  
國ヲ治メ家ヲ七齊ルノ子ノ惡キ事  
ヲ知ルコト十ニ苗ノヲハヒナルヲ知  
コト十ニ心ヲ誠ニシテ身ヲ脩メタラ  
ハ何リ見ハサル所十カラシヤ誠ニ身  
ヲ脩メスニハ家ヲ齊コトアタハシ忠  
信ヲ本トシテ惡キ人ヲ友ニスルコト  
十カレ過テハ則改ルニ憚ルコト十カ

レ善人ノ行跡ヲ見テハ齊カラシム事ヲ  
思ヒ惡キ人ヲ見テハ心ノ内ニ能クハ  
リシヨ幼君ニ仕ハテ萬ツ我心ノ下ニ  
ニ事ヲ行ヒ君ヲ守タテタル人其君長  
成ノ時ハ心得アルハキ事十リイハル  
幼キ時ト同ニ事ニ思ヒテ君ヲ窺フ心  
十リ我カフニ振舞ハハ必災難ニ逢  
十リ臣下タル人比慎十ケレハ其身ヲ

亡シ失フ取ニアラス君ヲ仁思スク十  
 二ト思フ者アルヘシ又大臣七ヒ又シ  
 ハ國家ノ爲ニヨロエカラヌ事ナシハ  
 人君ニ仕ル者ハ先<sup>ヨリ</sup>我カ身ヲ脩ル道  
 ナリテ第一ノ要<sup>ヨリ</sup>心トスルナリ我カ身  
 ナクタニ事ヲ思ヒテ君ノ爲ニヨキ事  
 ナシトモ諫ルコトナシ如斯ナル時ハ  
 家ヲ亡レ國ヲ亡シ我身モ損サレ害<sup>ナシ</sup>フ

事多シ又諫メテ死スルトキハ身ヲ脩  
 メサルモノニハアラス<sup>シカシ</sup>日<sup>シ</sup>殷ノ比<sup>ヒ</sup>于<sup>カシ</sup>  
 ハ諫メテ死スレトモ仁者ト賞<sup>シヤウ</sup>スルナ  
 リ是ヲ以テ見ルトキハイウクニソ諫  
 メサラニヤ凡ソ人ノ身ヲ脩ル事ハ常  
 ニ其行ヒヲ慎ムニアリ人必身ノ上ノ  
 惡キヲハ覺ヘヌモノナリナキ<sup>ク</sup>決ヒモ  
 其身ニ及フ事ナシハ我身ニ<sup>ズ</sup>誤<sup>ル</sup>所ナ

三是時ノ不祥ナリトテ人ヲ恨ル或ハ  
 天ヲ恨ル也先ツ我カ身ヲ能ク省其故  
 ヲ悟リ又智ル人ニモ夕ツ子聞テ其  
 行ヲ改ル時ハ罪ニ逢事ナカルヘシ災  
 害之自然ニ除クルナリ譬ハ年老タル  
 人病ヲ受ルトキハ其身衰血氣ノ乏キ  
 事ヲハ知スレテ我身ニ於テ悪キ養生  
 之毒アル物ヲ食ヒ何カ故ニカリ病アル

ルト疑ヒ思事大ナル過ナリ柔弱ナル  
 所ヲ省キ年老躰衰タル事ヲヨリ知テ  
 ヲリ身ヲ慎ミ養生ヲヨリスルナリハ  
 身ヲ終マテ病ノ憂スルナリ弥長生ヲ  
 保ツヘシ又強クニ物ヲスキ好事ナカ  
 シ耳ヲ悦シメ目ヲ悦シメシニ為ニ羞色  
 淫聲ヲ好メハ心ノ正ニキ事ヲ失フ也  
 ノナリ不復耳目百度惟貞ト古語ニ云

見ハタリ又當座ノ貞ヲ催シ爲ニ倡優  
 ノ人ヲ迎付テ玩ヒ愛スル事ナカレ倡  
 優ノヲトケ言ヲ云七ノハ實スシナシ  
 故ニ人心ノ徳ヲ喪ヒ身ヲ脩ルコトカ  
 タシサレハ玩人喪徳玩物喪志ト云ハ  
 リ或ハ天地ノ間ニ災變ノアルトキハ  
 愚ナル人ハ巴カ身ノ慎ミヲ致ス事ハ  
 不知シテ天地ハ廣大ナル事ナシ八十

トカ奇異ノ事モナクテハ有ハキトテ  
 慎ム事ナシ忽シテ人ハ天地ニノツト  
 ヲテ生長スル者ナレハ天地ニ變アラ  
 ハ人ノ身ニ於テモ災害ナクテハ叶ハ  
 ズキコトナリサレハ天下國家ヲ有ク  
 其身ヲヨク脩ニト思フ人ハ必ス先已  
 レカ行ヒテ顧シテ能慎ムヘキナリ故  
 孔子モ迅雷風烈必變メ天ノ怒ヲ敬シ

絡ハリ物惣シテ身ヲ治ルノ口ツラヒハ  
物ムツカシカリテヨリ事ハヲコタシ  
リ事ハヲユダリテハ身ヲ脩ル事ナシ  
或ハ又我身ヲヨク思ハレシトノ心  
ニカケテ事ハニ指出ル者ハ却テ害ニ  
遭フコトアリ道タルハ及ハヌ者  
ヨリヲトリナリ譬へハ調子ハ十二調  
子ノ一ノタカキヲ上無ト云上無ヲ一

調子ヲカフスル時ハ却テ壹越ニナル  
是ヲ以テ見ルトキハ道猶不及ト云ハ  
ルモケニ理ナリ

### 軍之事

夫軍法ハ第一ニ身ヲ脩ル事次ニ人ヲ  
知ル事次ニ國ヲ堅クスル事首衛ノ靈  
公問於陳孔子孔子對曰俎豆之事ハ  
則嘗聞之ム天軍旅之事ハ未之學ト宜

へり軍法トテ道ノ理ニ違フ事十二然  
 ルヲ禮法シ指置テ先ツ陳ヲ問ハル故  
 ニ孔子コト正夕ハス軍毛禮ヲ才サ  
 ノテ諸軍ト心ヲ一ツニセサレハ成ル  
 事十シ諸軍ト心ヲ一ツニスルト去心  
 ノ私十少假ニ毛偽ヲ行ハス巴ニホコ  
 リ人ヲ慢事十カレ次ニ人ヲ知ト去ハ  
 其言行ヲコク見ヨ其言ハ正ニケレ尾

其行ハ私ニアラハ小人ト思ヒ用ル事  
 十カレ又臣ヲ使フニハ其器ノ一ニ  
 スルトハ任賢使能ト去テ其人ハノ長  
 メ得タル所ヲ識シ見テ品々ノ役ヲ司  
 ラシム若其器ニ當ラサレハ貶テ別人  
 ヲ能擇テ用ニハシ其職々ヲ以テ法ヲ  
 シラシムルトキハ威勢アリテ兵剛ニ  
 故ニ非禮威嚴不行ト去ヘリ初メカレ

キノ過千アル時ハ省クコトナカシ  
 或ハ死罪或ハ流罪或ハ籠居杖罪或ハ  
 過錢其咎ノ輕重ニ随テ行フヘシ君子  
 ハ懷刑トハ刑ハ法也平生國ノ法刑ヲ  
 慎之心ニ就テ忘レヌク小人ハ懷  
 惠トハ小人ハ君ノ仁惠ノ廣大ナルヲ  
 見ラヤキナル過ナク免ニト思ヒ心ム  
 忠リ其ヨリ大ナル罪ニ陷ル事アリ小

過ノトキ其々ニ懲レ法ヲ以テ教ヘ導  
 トキハ其人過ヲ改テ善ニ進ム傍人モ  
 是ヲ見テ心ヲ慎シ法ヲ才カサニ事ヲ  
 恐ルレハ則君子ニ于カニ依テ樂用ル  
 時ハ人ヲ用ルノ道ヒタル君舊惡ヲ思  
 ナルトキハ臣モ舊惡ヲウタカハス臣  
 舊惡ヲ疑ナレ時ハ心ヨリ眼メ忠義臣  
 ナナル次ニ國ヲ堅クスルト云ハ民ヲ

使フニハ耕作ノ隙ヲヨク考ヘテ使フ  
 へ<sup>レ</sup>或ハ人ノ疲<sup>レ</sup>タル時ハ使ヘカラス  
 民ハ極テ愚ナル者ナレハ殊更ヨク教  
 ユヘ<sup>レ</sup>此三ツノ毛ノヲヨク心ニ懸テ  
 行フ時ハ四方ノ者隨ヒ飯セスト云事  
 ナ<sup>レ</sup>或ハ敵ヲ攻ル計ハ先敵ト我トノ  
 強弱ヲハカリ見テ敵ノテタテヲ能ク  
 察シ敵ノ國ノ難<sup>ニ</sup>易<sup>イ</sup>廣狹或ハ道ノ案内

ヲ能ク窺知リ敵ノ大將ノ行跡ヲ聞テ  
 利アルヘキ所ヲ我國ニテハカク知ラ  
 ハ則チ出馬ニ及フヘシ縦ヒ敵軍十萬  
 テ我カ五萬ノ小勢ナリトモ右ノ計ヲ  
 以テセハ掌<sup>ヲ</sup>ノ内ニツラニ若クハ國ノ  
 境ニ敵ノ城アラシク其要害アリクハ急  
 ニ計テ是ヲ取ヘシ敵城ノ構堅固ニシ  
 テタヤスク取コト難<sup>ク</sup>成能クヲサヘシ

置テ通ルヘニ敵小勢ナリトテ慢ルヘ  
 カラス敵ト合戦ノ時先ヲスルコト簡  
 要ナリ然トモ其地勢ニヨツテ或待テ  
 合戦シ或ハ進テ軍ヲスル事アルヘニ  
 前ニ河アラハ先ツ河ヲ越スニ利アリ  
 敵ニ河ヲ越シムル事ナカレ然トモ土  
 地ニヨツテ河ヲ四五町モ隔テ備ヲ夕  
 子敵ノ軍一軍ノ半河ヲコエ夕ル所ヲ

急撃ヘシ故ニ古語ニモ涉水半渡可撃  
 ト云ヘリ或ハ待テ戦ヒ或ハ進テ戦フ  
 何レノ道ニテモ夕、カイニ皮テハ先  
 スル事ヲ第一トスルナリ

國ヲ治ル事

國ヲ治ルニ政ヲ以テスルソ齋之ニハ  
 以テ刑スレハ民ヲヌカレントテ耻ヲシ  
 ラス徳儀ヲ行ヒ禮ヲ以テ教ムルトキ

八民耻ヲ知テ邪ナル事ヲ思ハス凡ソ  
君タル人位高ケレハ諸臣是ヲ恐レ懼  
ル故ニ諫ヲ申ス者十ニ諫ヲ聞サレハ  
身ノ誤ヲ知ラトナシサレハ人ヲ能懷  
テ諫ノ言ヲ用ユハキナリ君悪ケレハ  
能臣下錐有テ國治ルコトナシ殷ニ箕  
子微子比テト云テ賢人アリト云ヘト  
元紂諫言ヲキカサレハ則其國亡ソ楚

ノ懷王屈原ヲ不用レテ卒ニ秦ニトラ  
ワレタリ故ニヨキ臣下アレトモ諫ム  
ル事ヲキカサレハ其國必ス亡ソ家ニ  
諫ル子ナケレハ其家必亡ソ國ニ諫ル  
臣ナケレハ其國必亡ソト云ヘリ凡ソ  
君トシテ賢人ヲ進メ用ル事誠ニ大事  
ナリ位尊高キ者ヲハタツトヒ親類ヲハ  
シタシム定レル常ノコトハリナリ然

ト七尊キ者七必シ七賢人ニアサレハ  
 賤ク疎遠ナル者ナリト七賢人ナラハ  
 エラニ進用スハニ筭ハ早キ者ハ尊キ  
 者ヲユヘ疎キ者ハ戚キ者ヲユヘ是非  
 常ノ事ナリト云ハトモ古今ナリテハ  
 叶ハサレ通義ナリ君トシテ此特ニ用  
 スル所ヲ以テシテサレハ今ニテ尊キ者  
 戚キ者七彼賢人ニユサレテ其下ニ十

ルニハニ恨ヲ懷クニ憚リテ賢ヲ用ヒ  
 サレハ國家治ル事ナシ堯ノ舜ヲ用ヒ  
 文王武王ノ太公望ヲ用ヒ刑備ノ孔明  
 ヲ用ヒカ類ヒ賢ヲ進ル義ナリ又或ハ  
 大ナルコトヲ行フトキハ少キナル事  
 ナ用ヒシメス故ニ人行ハ不顧細謹ト  
 云ハリサレハ国君ノ心ヲシケレハ國  
 民必芸王必アシケレハ天下必スアヤ

フ大人ノ必<sup>コト</sup>一ツヲ以テ天下ノ民喜フ  
 又アシケレハ苦ム其心ヲ不<sup>レ</sup>倍國ヲ治  
 ル事ナシ故ニ一家仁一國興仁一家讓<sup>レ</sup>  
 一國興讓一人貪戾一國作亂ト古語ニ  
 毛見ベタリ誠ニ國ヲ治ル事ハ先德ヲ  
 以テシ法ヲ以テスルソ夫德法ハ民ヲ  
 御スルノ具ナリ民ヲ御スル事ハ馬ヲ  
 ノル<sup>シ</sup>御<sup>ス</sup>勅<sup>ノ</sup>アルカ如シ君ハ人ナリ職

ヲ司ル者ハ轡也刑ハ策ナリ夫人君ノ  
 國ヲ治ル事ハ其轡ト策トヲ執テ馬ノ  
 ヲリカヌヲ毛策ヲアゲテ御シ口ノツ  
 ヲキヲハヲサハテ御スルカ如シ刑罪  
 ヲ策トシ人ヲ以テキトシ萬民ヲ以テ  
 馬トシ國ヲ治ムヘシ善馬ヲ御スル者  
 ハ轡ト策トヲ齊<sup>ト</sup>ハテ馬ノカヲ均<sup>シ</sup>シテ  
 馬ノ心ヲヤワラクル故ニ口無聲ニテ

馬轡ニ應策ヲ舉サレト父アリク事千  
里ヲ極ムハシ故ニ職ヲ司ル人ヲコタ  
ル事アレハ策ヲウシテ御スルユハニ  
眼セスト云コトナリ後ニ必ス刑罪ヲ  
加ハサレトモ國家治ルヘキナリ又國  
家ヲ才サムルニ慎アリ人臣ノ君ヲア  
ナトルト思ヒテイカリツヨシ其怒ニ  
恐レテ諫メ申者ナニ君ノ身ヲヨク脩

メテ身正シケレハ不慢又人臣アナト  
ラハ身ノ脩アリト思テ能ク我身ヲ  
省ミ其身ヲ正セヨ身夕、シケレハ少  
モアナトル事ナシ

禮法之事

禮ハ先ツ父母ニ孝ヲシ君ヲ敬シ兄弟  
ニハ親シ朋友ニハ交リ夫婦有別有別  
ト云ハ男女八人倫ヲ正スル根本ナシ

ト七劫カクテ人倫ヲ亂リテ禽獸ニ同シヤ  
 ンニ有ニ事ヲ誠マコトテ夫婦有別ト云ハル  
 ナリ男ハ色ニ溺シス女ハ淫セサルヲ  
 曰キ道トス夫婦ヨリ禮ハソコル者十  
 レハ必ス夫婦ノ禮ヲ才口リカニ取ル  
 事ナカレ然トモ惡ニキヨクナリ能キヲ  
 ハ去ラヌヲ禮法トス故ニ列女傳ニ七  
 去ヒニ去ノ品アリ七ノ去トハ其父母

ニ不順ヲハ去リ子ナキヲハ去リ淫ス  
 ルヲハ去リ子ナシスルヲハ去リ惡キ  
 疾ヤブアルヲハ去リ言ノ多キヲハ去リ竊盜  
 スルヲハ去リ十リ三ノ不ル去ノ品ハ  
 メトル所アツテ返ス所ナキヲハ不去  
 三年ノ喪ニ夫ト同クワトメ行フヲハ  
 不レ去前ニハ貧賤ニシテ後ニ富貴ナレ  
 ハ不去也禮ニ三百三ノ各アリト云

一ト元禮ノ本不敬ハアルヘカラス敬  
 しウヤゴイ心ヲ直クスルカ簡要ナリ  
 又顔色ヲ正シウスルカ禮ナリ安定辭  
 トハ心ノ定ル者ハ言コトヤスメユル  
 ヤ中ナリ心ノ不定者ハ其辭輕クシテ  
 イソカシ我ト能ク言イヘハ惡コトヲ  
 之トリ我ト惡キ者ノ能コトヲ存シ  
 財寶アツバラハ分ナツカハス然ト元

義ニアラサレハ散セス財ヲウクルト  
 キニ義ニアラサレハ不受又難ニ逢ト  
 キニ死スト元義ニ背テ生ント来ムル  
 コトナカレ又人ニサカフア元ノアラ  
 ソヒスルコトナカレサカフテ勝ニト  
 来ムレハ禮ニアラス禮ハ國ノ風俗ニ  
 ヨツツテ行リ風俗ニ之タカハサレハ  
 不行故ニ禮從宜使從俗ト古語ニモ見

ハタリ人ヲ悦ハシメントハカリク  
ト求ムルトキハ我心ヲ備ムルノ正  
キ道ヲ失フモノナリ君子ノ辭ハス  
十クニテ其意ヨク理ニアタレリ小人  
ノ辭ハ多シテサハカニイフトコロ  
トケレハ聽者必スアツナリ人ト交  
トキニクワロキスグレハ必スウマ  
不ウ、レムコトヲ忘ルリ人トニ禮ヲ

エラサレハ身歎ト同ニ禮ナケレハ親  
子兄弟不別、夫婦トナル故ニ鸚鵡能ク  
言ハト元不離飛鳥狸ハ能言ハ凡不離  
禽獸今人トニテ無禮能言不禽獸  
此平カ人禮アルトキハ安ニ禮ナキト  
キハ危ニ故ニ曰禮不可在、不學也

官位之事

或人問テ曰古ヘヨリ官位ト云事アリ

官位ナリシテ七身ヲ以テトノ國ヲ治メ  
 ハ如何答曰身ヲ以テトノ國ヲ治メハ難  
 ナリトハ去ヘトモ官位ヲ以テ其人ヲ  
 ラヒ品々ヲ分テ其職々ヲ守ルトキハ  
 幼君ニシテ國ヲ亡ス事スクナシ官位  
 ナケレハ一代ハ其人ノ氣量ニ依テ治  
 ムルト云ヘトモ繼代君愚ナルトキハ  
 必ス亡フ官位ヲ以テスルトキハ亡フル

事スリナシ又官位ナケレハ才覺ナリ  
 者ニ事ヲ多ク興フルトキハ事ノ多キ  
 ニ依テ或ハ亡ニ或ハ惑下ヒ亂ル故ニ官  
 ヲ以テ其職ヲ行フトキハ事スリナシ  
 ニ依テ我カ官位ノコトヲヨク守ルナ  
 リ品々ノ官位ヲ以テ使フハ工匠ノ器  
 ヲツカフカ如シ錐ヲ以テ大木ヲキレ  
 トイヒ斧ヲ以テ穴ヲアケニト云ヘハ

得タ工匠モ能クスル事ナシサレハ人  
ヲツカフモ如此得タル所ヲ以テ使フ  
時ハ大ニコト行ル得サル事ニ使フル  
時ハ人ヲモソコトイ又君モ惡キ名ヲ  
トル事アリ得サル職ニツケタル時ハ  
則改メテ餘ノ職ニ任スヘシ道ナクア  
ラタムルヲ能キ道トス

### 神社之事

神ハ敬ニテ遠サクルヲ本トス神ニ私  
ノ利ヲ申スハ大ニ道ナリナリ神ニ祈  
ル事ハ父母君長國義ヲ祈ル私ノ事ヲ  
カタリ祈ル事ナカレ周公モ成王ノ痴  
ノ時ニ身ヲ以テカハラヌ事ヲ祈リ湯  
王ハ旱魃ノ時ニ神ニ向テ雨ヲ祈ル是  
皆理ニ當リタル祈ナリ神ハ非禮ヲ不  
受コトナレハ私ノ利ヲ以テ祈ルトモ

イカニソ達セシヤ昔帝堯ノ華ニ至リ  
 ヲフ時ニ華ノ封人ノ云ク我レ帝ノ  
 爲ニ壽長クマシマサン事大ニ富タマ  
 ハニト男子多ク儲ケ給ニ事ヲ神ニ  
 祝シテ参ラスハニト申ケレハ堯カマ  
 ツイナヒテ受タマハス其特封人中  
 ケルハ此ニハ者ハ皆人所願ノ幸ヒ  
 也君何リ是ヲ辭ニタマフヤト申ス堯

ノ曰ク男子多クハ懼アリ富トキニ  
 ハ事多ク壽長ケレハ辱多ク是皆徳ヲ  
 養フ所ノ者ニアラスト宜ハリ富貴壽  
 福榮禄ハ天ノ與ルトコ求メテ得ハ  
 キニアラス故ニ孔子ノ曰獲罪於天則  
 無所祈也ト云聖言堯ノ心ニ合セリ實  
 ニ私用ヲ祈ヲサレ事牝カナリ  
 萃之事 附祭之事

父母死スル時ニハ葬<sup>ムスビ</sup>之禮ヲ以テスル  
 ト云ハ父ノ官位ヲ以テ家ノ有無ニ隨  
 テ葬ルリ其位ヨリモ厚ク葬ルモ孝ニ  
 アラス薄クスルハ殊更孝ニアラス予  
 謂<sup>イハレ</sup>ラク今ノ衆人ノ葬ハ家ノ有無ニ隨  
 事ヲ知ラス浮屠ノ類<sup>ル</sup>ニ其事ヲ專<sup>ラ</sup>トス  
 ル故ニ種々ノ鳴物ヲコシラハ其時ノ  
 風流トシテ葬サルヲ道トス愚ナル人

ハ其時ノ花麗<sup>イ</sup>ナルコトヲヨキト思ヒ  
 テ浮屠ノ云ニ隨ト見ヘタリ死人或ハ  
 富貴ナシハ布施物ヲ多ク取<sup>ハカリ</sup>テ謀<sup>ハカ</sup>ヲタ  
 道ニ遠フタル事共云ヒ出シ結句  
 檀越ト云中惡クシ中間ニテ云口譎<sup>ウソ</sup>ヲ  
 仕出ス是道ニ遠フテ葬故ナリ道ヲ以  
 テ葬ラハ豈如此ナランヤ祭ニハ禮ヲ  
 以テスルト云ハリ父母ヲ祭ニハ子ノ

位ヲ以テ祭ル孝ナルトテ道ルモ孝ニ  
アラス及ハサル殊ニ不孝ナリ惣シテ  
祭ニハ存生ノ時ノ知リヨリ敬スハシ  
故ニ神ヲ祭ル事ハ神ノ知レ在ト云ヘリ  
父母存生ノ時ハ目々ニツカエニ事ヲ  
思ヒ死シテハ又在カ如ク敬シテヲユ  
ソル事十カレ聖賢ノ教ハ如此釋氏ノ  
教ハ然ラス三十三年ノ遠忌スキヌレ

ハ祭スト云リ是大ナル道ナリ子トシ  
テハ父母ノ跡ヲ慕ヒ孝心アラハ目々  
ニ祭テモ飽タラサル事ナリ三十三年ス  
コシテモ何リ祭ヲサラン又夫父母ハ  
子ノ天地ナリト云ヘリ人トシテハ暫  
モ天ヲ戴キ地ヲフクスト云事ナリ時  
々ツトメテ忘ルヘカラス

惑<sup>下</sup>之事

凡ゾ利ハ大ナル惑ナリ梁ノ惠王子四  
 子ニ問テ曰何ヲ以テカ我國ヲ利セシ  
 ト云リア、誠ニ利ハ亂ノ始也自天子  
 至庶人、媿利ノ弊何ヲ以テカ累ハナラ  
 ニヤ誠ニ利ヲ好トキハ國ヲ奪ヒ天下  
 亂シ又ニ皆キ君ニ返シ兄弟ヲハタツ  
 ル者皆好利ノ謂ナリ或人問テ曰人ノ  
 禮物ヲ受ル事其身ニ私ナクハ難ナカ

ルハキヤ答曰道ニ叶ハルヲ以テ受ハ  
 難ナシトハ云ハト无物ヲ受ル事多ク  
 レハ人ノ物ヲ費ス弊アリ又禮物ヲ得  
 タル人ヲハ争ノ時モ少ク人欲ニヒカ  
 レテ其人ノ惡ヲモ善ト心得テ人ノ惡  
 ヲ長シ其身元又惡ニ臨ル事アリ少人  
 タル者ハ賂ヲトル事ナカレ其身違フ  
 事ナク心知者タル者ハ異見ヲ云フ其

身却テ是ヲ腹立ス其故ハ其身ノヨキ  
 ヲ他人ニ惡ク云十ニタルト心得テ惡  
 キヲ改メヨト云ヨ更ニ聞入ル事十ノ  
 ニテ異見ヲ云フ人ヲ結句ハツカレム  
 ル事多シ是惑ニアラスヤ故ニ子游曰  
 事君數斯辱矣朋友ニ數斯疏矣ト云リ  
 我カ行ノ惡キ事ヲハ顧ミスレテ我ヨ  
 リ上ツカサノ人ノ行跡ヲソ子ミ諍リ

テ其人ノ穢ヲ司ラハ能行フハキト思  
 ヘリ是皆世上ノ人ノ心十リ先ツ我カ  
 身ノ惡キヲ不改レテ人ノ身ノ上ヲ強  
 テ云フ是大ナル惑十リ又或ハ仕合ノ  
 惡キ時カ又痴ル特ハ少ス心ヒカレテ  
 其身ノ常ノ行跡ヨリモ心得ヌコトヲ  
 恨ミ主ニ不足ヲ云ヒ又ハ傍筆ヲモ恨  
 ヲ遠サカルト見ヘタリ是大ナル惑也

仕合ノ惡キ時カ病ル將ハ萬ヲカヘリ  
 之ヲヨリ慎ムヘシ君ニ諫ヲ云フ者之  
 利欲ノ事ヲ以テ諫ル時ハ君是ニ同心  
 ス國民ノ慥<sup>トヤ</sup>ト弊<sup>ツイ</sup>ルコト也利欲ニ其ハ  
 ル、時ハ必スシラサル也ノ十リ利口  
 辨者十ル者ハ當座ノ利ヲ言ニテ利徳  
 ヲツクニト云十リ利欲ハ誰モ聞入ヨ  
 キ故ニ君七利口十ル者ヲ必ス舉用ル

十リ利口十ル也ノハ主君ノ爲ニ思ヤ  
 ウニ利十ル事ノシ公十リ利十ル事ハ  
 ヲキニアラス眞實ノ道理ヲ失フ也ノ  
 十リ其故ハ昔<sup>昔</sup>時<sup>時</sup>孰<sup>孰</sup>ニ公子翬ト公者ア  
 リ隱公ニ申ケルハ桓公ハ君ノ弟タリ  
 君ノ父<sup>子</sup>遺言ニ任テ桓公ヲ世ツキニ  
 シタマハシトス桓公ニ讓<sup>譲</sup>ラヨリハ君  
 ノ子ヲ世ツキニシヨハ桓公ヲハ我

殺し奉らんと云キ、隱公曰、我ハ攝政十  
 リヤカテ桓公ニ讓リ、與ト宜フ公子翬  
 謂ハラシ、桓公ノ世ニ成テ此事セシキ  
 コハハ我罪ニアワシ、事ヲ恐テ又桓公  
 ニ申テ曰、隱公世ヲ君ニユツラント宜  
 ハトセ、實ハ子ニ讓ラント思ヘリ、我、隱  
 公ヲ殺シテ君ノ世ニ成シ奉ラント云  
 桓公是ヲ免シキヤカテ鐘巫ニテ、隱公

ヲ殺シキ其功ニ依テ位セ高クアカリ  
 シカレバ、幾程ナク罪ニアフテ殺サレ  
 新獲必、景帝ノ時ニ晁錯ト云臣アリ  
 景ニ申メ曰、諸ノ國主大國ヲ領ス已ニ  
 叛スルトキハ討カシ、國ヲ削  
 中ノ地ヲ與ヘタラハ叛スト云トセ、討  
 コトタヤスカラント云、景帝ノ曰、其理  
 誠ニ當リト云テ七國ヲ先ツ削ル、故ニ七國

大ニ起テ已ニ天下ヲ覆<sup>ク</sup>サントス其故  
 ニ晁錯ヲ殺シテ七國三ノツケシム又  
 大明ノ建文帝ノ特ニ黃子澄<sup>テ</sup>ト云臣ア  
 リ七國ヲ削リシ例ヲ引テ又諸侯王ヲ  
 削リ燕王ニ及ニ升ス燕王軍ヲヒキイ  
 テ建文帝ヲ討テ燕王ノ世トナリ是ヲ  
 太宗ト云ヘリ又神宗ノ臣ニ王荊公ト  
 云者アリ王荊公新法ヲ立テ君ノ爲ニ

利アル事ヲ進ム苗ノ時分ニ民ハ必ス  
 飯ウスニ故ニ復是ニ稻ヲ借々テ秋ニ  
 至テ利倍ヲトシハ君ノ爲ニ元利アリ  
 又復ハ飯ノウスキトキナハ民ニ是  
 シカストキハ民ヨロコフ也是大ナル  
 國家ノ利ナリト申ケレハ神宗是ニ隨  
 フ此故ニ國大ニ弊タリ是皆利口ノ行  
 フ業ナリ故ニ論語ニ利口ノ郡家ヲ覆

ス事ヲ惡ムト云ヘリ誠利口ヲ用ヒ利  
欲ニ引シテ國家ヲ元ツ是火十ル惑ニ  
アラヌヤ能ク慎ムスニハアルハカラス

初學文宗終

前尼陽國主ニ品亞相源義直君編撰

示時延寶<sup>丙辰</sup>曆仲夏念日於武陵書字正子

成田氏宣長

尾陽士人藤原宜長揖書曰 伏惟

先君西相源敬公明睿寬簡而夙夜勵經世之志  
既觀家國之盛富無貴無賤欲使此道覺之維初學  
文字所以由設也修身治國之要無不悉備矣往々  
槐棘クニキ緝紳尊信之而頒行則文德風化靡不旋踵ス  
失可謂樂只君子也臣等仰窺下班聞其龍身育國  
極仁恩矣翅賊恥臣竊恐今也不稱先君之  
顯名則百世之下不將如無知古下和璧者請記其事而

跋セヨ僕シヨウ竦然謝之曰ヨキ竽宜長之忠言呼古人峴山登  
臨猶慨湮滅無聞况斯

先君之遺教乎哉僕出然道思之未ル筆亡女如卷  
末不堪戰慄之至僕豈敢テ違之宜長屢強不止  
遂感宜長志カ及シ謹書テ

延寶七拾貳年孟夏仲沆

尾陽德屋并河主靜百軒

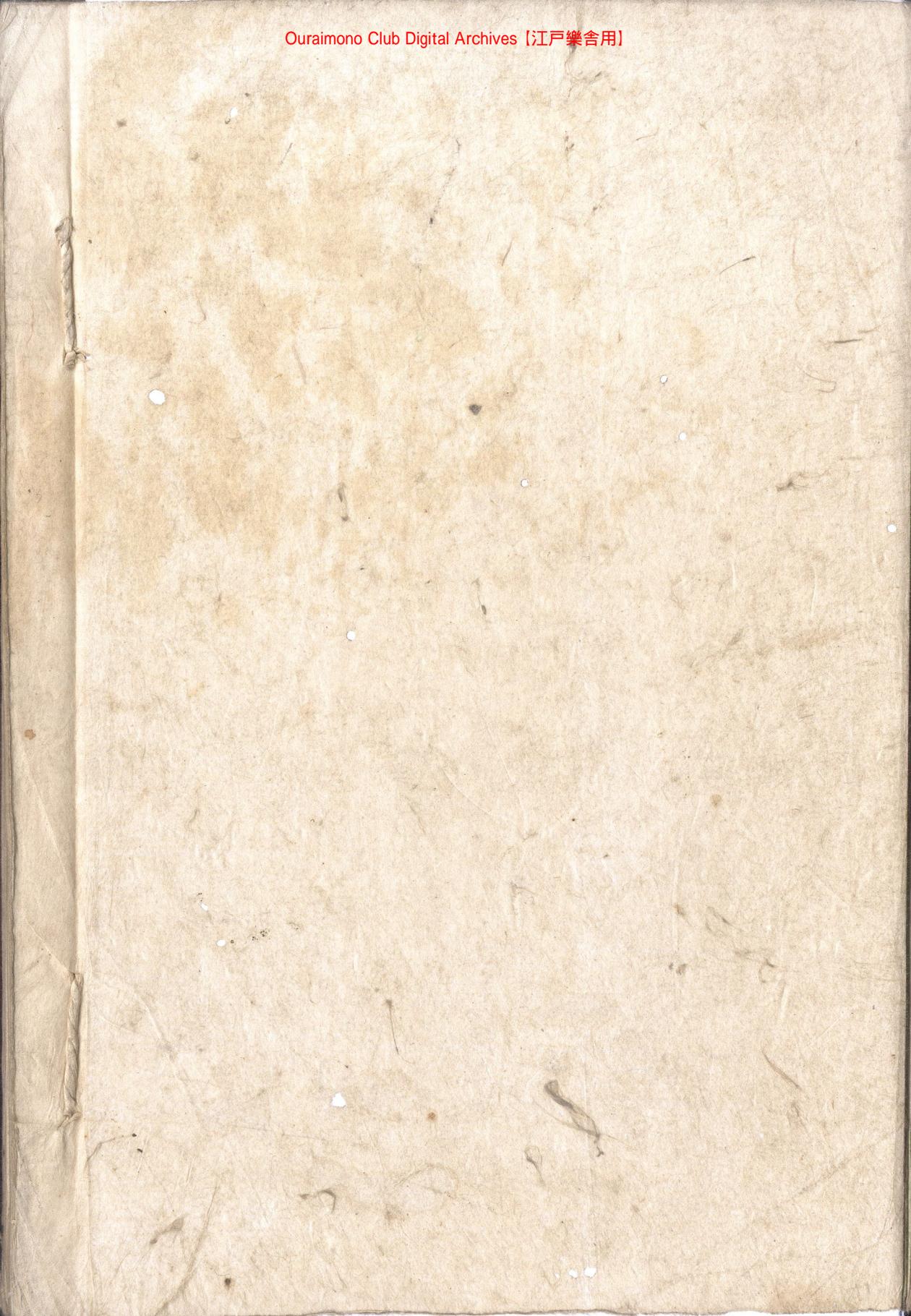


明味五歲

六年

五月廿七日

古本集書了



日新學校開業祝辭

學子向教化<sup>根本</sup>之根<sup>本</sup>本<sup>ニ</sup>シテ  
 人<sup>ノ</sup>自<sup>ラ</sup>其<sup>業</sup>業<sup>ヲ</sup>脩<sup>メ</sup>其<sup>性</sup>性<sup>ヲ</sup>昌<sup>ニスル</sup>百<sup>事</sup>事<sup>ニ</sup>ナ<sup>ク</sup>學<sup>ヲ</sup>業<sup>サ</sup>ル<sup>ナシ</sup>  
 故<sup>ニ</sup>百<sup>政</sup>政<sup>ノ</sup>方<sup>ニ</sup>起<sup>ル</sup>ニ<sup>陰</sup>陰<sup>シ</sup>文<sup>部</sup>部<sup>之</sup>省<sup>ヲ</sup>置<sup>キ</sup>大<sup>中</sup>中<sup>ノ</sup>學<sup>子</sup>子<sup>區</sup>區<sup>ヲ</sup>  
 分<sup>チ</sup>學<sup>制</sup>制<sup>故</sup>則<sup>ラ</sup>ウ<sup>ラ</sup>ノ<sup>教</sup>教<sup>育</sup>育<sup>ノ</sup>途<sup>ヲ</sup>開<sup>キ</sup>モ<sup>フ</sup>何<sup>ソ</sup>ヤ<sup>邑</sup>邑<sup>ニ</sup>不<sup>學</sup>  
 ノ<sup>戸</sup>ナ<sup>リ</sup>家<sup>ニ</sup>不<sup>學</sup>學<sup>ノ</sup>徒<sup>ナ</sup>カ<sup>ラ</sup>レ<sup>メ</sup>ニ<sup>ノ</sup>上<sup>旨</sup>旨<sup>ナリ</sup>苟<sup>モ</sup>人<sup>タル</sup>モ<sup>ノ</sup>  
 學<sup>子</sup>子<sup>ハ</sup>ス<sup>ニ</sup>ハ<sup>ア</sup>ラ<sup>ス</sup>人<sup>學</sup>學<sup>ハ</sup>ス<sup>ニ</sup>ハ<sup>智</sup>智<sup>ナ</sup>シ<sup>レ</sup>智<sup>ナ</sup>キ<sup>ヲ</sup>愚<sup>ク</sup>人<sup>ト</sup>云<sup>フ</sup>蓋<sup>シ</sup>人<sup>ノ</sup>  
 其<sup>固</sup>固<sup>有</sup>ノ<sup>智</sup>智<sup>ヲ</sup>擴<sup>メ</sup>テ<sup>其</sup>理<sup>ヲ</sup>究<sup>ム</sup>ル<sup>ハ</sup>則<sup>チ</sup>學<sup>子</sup>子<sup>ニ</sup>ア<sup>リ</sup>學<sup>子</sup>子<sup>テ</sup>而<sup>シ</sup>  
 後<sup>チ</sup>教<sup>ヲ</sup>及<sup>ビ</sup>及<sup>ト</sup>レ<sup>テ</sup>人<sup>ノ</sup>職<sup>分</sup>分<sup>ヲ</sup>盡<sup>ス</sup>カ<sup>シ</sup>始<sup>メ</sup>テ<sup>真</sup>真<sup>ノ</sup>萬<sup>物</sup>物<sup>ノ</sup>  
 靈<sup>ト</sup>稱<sup>ス</sup>ヘ<sup>キ</sup>ナ<sup>リ</sup>高<sup>ニ</sup>ス<sup>ル</sup>ル<sup>ハ</sup>低<sup>ヨ</sup>リ<sup>ス</sup>今<sup>哉</sup>哉<sup>知</sup>知<sup>リ</sup>里<sup>ノ</sup>學<sup>子</sup>子<sup>ノ</sup>實<sup>也</sup>

急務ナリ是ニ三重縣第三區之下區鍋屋所矢田町

福江所用枳某等之ヲ有志ニ協議シ共ニ新築ノ費ヲ曝

集<sup>シ</sup>ニ<sup>校</sup>校<sup>舎</sup>舎<sup>ヲ</sup>設<sup>ク</sup>シ<sup>テ</sup>ハ<sup>學</sup>學<sup>校</sup>校<sup>ニ</sup>獻<sup>セ</sup>ニ<sup>テ</sup>ヲ<sup>願</sup>願<sup>フ</sup>

縣<sup>ニ</sup>カ<sup>ク</sup>寄<sup>附</sup>特<sup>ク</sup>許<sup>ス</sup>ル<sup>ヲ</sup>第<sup>三</sup>三<sup>區</sup>區<sup>第</sup>第<sup>三</sup>三<sup>中</sup>中

學<sup>子</sup>子<sup>區</sup>區<sup>内</sup>内<sup>第</sup>第<sup>十</sup>十<sup>番</sup>番<sup>第</sup>第<sup>十</sup>十<sup>番</sup>番<sup>ノ</sup>學<sup>校</sup>校<sup>區</sup>區<sup>日</sup>日<sup>新</sup>新<sup>學</sup>學<sup>校</sup>校<sup>ト</sup>為<sup>シ</sup>本<sup>月</sup>月<sup>本</sup>本<sup>日</sup>日<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>

開<sup>業</sup>業<sup>ノ</sup>式<sup>ヲ</sup>新<sup>ク</sup>行<sup>フ</sup>嚶<sup>呼</sup>呼<sup>入</sup>學<sup>子</sup>子<sup>ノ</sup>生<sup>活</sup>活<sup>上</sup>上<sup>朝</sup>朝<sup>旨</sup>旨<sup>ニ</sup>禮<sup>ヒ</sup>ヒ<sup>テ</sup>下<sup>仁</sup>仁<sup>者</sup>者<sup>ノ</sup>衆<sup>也</sup>

加<sup>テ</sup>禮<sup>儀</sup>儀<sup>自</sup>自<sup>奮</sup>奮<sup>勿</sup>勿<sup>而</sup>而<sup>教</sup>教<sup>科</sup>科<sup>ニ</sup>注<sup>意</sup>意<sup>シ</sup>最<sup>モ</sup>手<sup>ト</sup>レ<sup>テ</sup>才<sup>識</sup>識<sup>ヲ</sup>

發<sup>達</sup>達<sup>ス</sup>ル<sup>ヲ</sup>期<sup>シ</sup>キ<sup>コト</sup>ヲ<sup>祈</sup>祈<sup>フ</sup>キ<sup>時</sup>時<sup>明</sup>明<sup>治</sup>治<sup>第</sup>第<sup>八</sup>八<sup>年</sup>年<sup>十</sup>十<sup>月</sup>月<sup>四</sup>四<sup>日</sup>日<sup>學</sup>學<sup>區</sup>區<sup>ニ</sup>

綿<sup>帆</sup>帆<sup>山</sup>山<sup>ノ</sup>領<sup>首</sup>首<sup>敬</sup>敬<sup>白</sup>白